建築・環境学部ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップの対応について

建築・環境学部は、キリスト教に基づく建学の精神と校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、次に掲げるすべての能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

◆知識・理解

1．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。**（幅広い教養）**
（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。

2．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。
（専門分野に関する知識・理解）

3．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。
（地域に関する知識・理解）

◆技能

4．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。
（問題発見・解決力）

5．国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。**（国際協動力）**

◆思考・判断・表現

6．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。
（多文化での共生）

7．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。
（倫理観、公平・公正な判断）

8．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。**（傾聴と発信）**

◆関心・意欲・態度

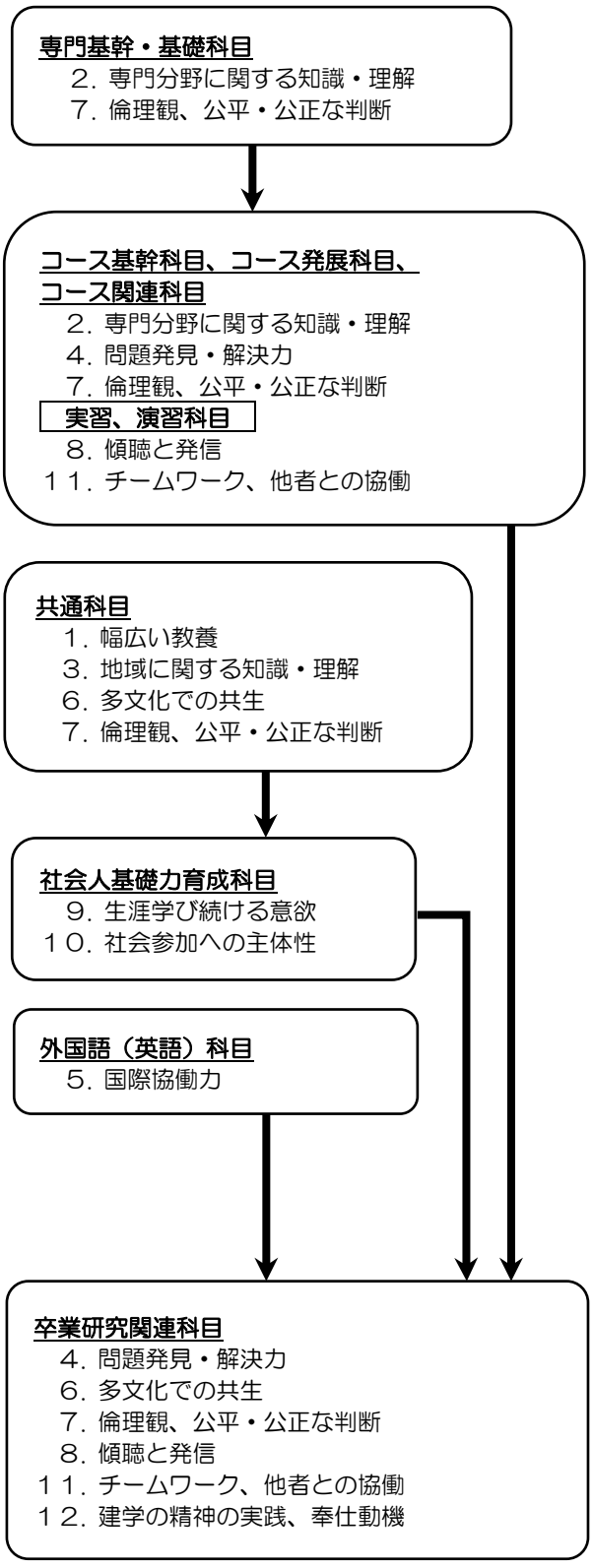
9．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
（生涯学び続ける意欲）

10．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
（社会参加への主体性）

11．建築物の設計プロセスにおいて、 豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。**（チームワーク、他者との協働）**

12．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
（建学の精神の実践、奉仕動機）

※対応するディプロマ・ポリシーは主なものです。



建築・環境学部 共通科目 カリキュラムマップ　２０２３年度以降入学生用

○印: 必修　△印: 選択必修　※印: 登録必須　無印: 選択

分野		1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		DP対応番号
教養科目	人文	○キリスト教学	○キリスト教学（技術者としての倫理）							1, 6, 7, 12
		文学Ⅰ	文学Ⅱ							1, (6), 7
		哲学Ⅰ	哲学Ⅱ							1, 7
		歴史学Ⅰ	歴史学Ⅱ							
		論理学Ⅰ	論理学Ⅱ							
		文化人類学Ⅰ	文化人類学Ⅱ							1, 6
		[日本事情（人文）]								1, 5, 6
			【廃】自校史							1,3,6,7,9,10,12
	社会	経済学Ⅰ	経済学Ⅱ							1, 7
		社会学	社会福祉論							
		法学	（法学）							
		憲法	（憲法）							
		政治学Ⅰ	政治学Ⅱ							
		心理学Ⅰ	心理学Ⅱ							
		[日本事情（社会）]								1, 5, 6
	複合		教養セミナ							1, 6, 7, (12)
			Japanese Culture and Society Ⅰ							1, 5, 6
			Japanese Culture and Society Ⅱ							
		ソーシャルサービス	（ソーシャルサービス）							4, 6, 10, 12
		※KGUキャリアデザイン入門１	KGUキャリアデザイン基礎１	【廃】KGUキャリアデザイン基礎２						1, 7, 10, 11, 12
		※KGUキャリアデザイン入門２		【廃】KGUキャリアデザイン応用						
		KGUキャリアスタディ(※1)	（KGUキャリアスタディ）(※1)	ＫＧＵキャリアデザイン実践(※1)						
		[日本事情（自然）]								1, 5, 6
		ＫＧＵデータサイエンス概論	ＫＧＵデータサイエンス演習							1,4,7,8,12
	複合（地域）	△KGUかながわ学（行政）	（△KGUかながわ学（行政））	地域創生特論（横浜）	地域創生特論（神奈川）					1, 3, 7
		△KGUかながわ学（経済）	（△KGUかながわ学（経済））	地域創生特論（川崎）	地域創生特論（相模原）					
		△KGUかながわ学（スポーツ）	（△KGUかながわ学（スポーツ））	地域創生特論（鎌倉）	地域創生特論（横須賀）					
		△KGUかながわ学（歴史・文化）	（△KGUかながわ学（歴史・文化））	地域創生特論（逗子）	地域創生特論（三浦）					
		△KGUかながわ学（健康）	（△KGUかながわ学（健康））	地域創生特論（岩手）	地域創生特論（葉山）					
		△KGUかながわ学（地域安全）	（△KGUかながわ学（地域安全））	地域創生特論（沖縄）	地域創生特論（茅ヶ崎）					
		△KGUかながわ学（自然と災害）	△かながわ学（IT産業）		地域創生特論（小田原）					
		△KGUかながわ学（コミュニティ）			地域創生特論（福島）					
		△KGUかながわ学（地域づくり）	（△KGUかながわ学（地域づくり））		地域創生特論（関内）					
			△かながわ学（環境）							
			△KGUかながわ学（政治）							
保健体育科目		健康スポーツⅠ	健康スポーツⅡ	健康スポーツⅢ	健康スポーツⅣ	健康スポーツⅤ	健康スポーツⅥ			1, 9, 11
						【廃】武道指導論Ⅰ	【廃】武道指導論Ⅱ			
外国語科目	英語	○総合英語（リーディング）	○総合英語（リスニング）							1, 5, 6
		○総合英語（オーラルコミュニケーション）	（○総合英語（オーラルコミュニケーション））							
		（○総合英語（ライティング））	○総合英語（ライティング）							
		△英語講読（科学・基礎）								
		△英語講読（科学）	（△英語講読（科学））							
		△資格英語（TOEIC基礎）	△英語講読（文学）							
		△資格英語（TOEIC中級）	（△資格英語（TOEIC中級））							
		△【廃】資格英語（技術英検）	△英語講読（時事英語）							
		△留学英語	△英語講読（論文）							
			△アカデミックプレゼンテーションⅠ		△アカデミックライティングⅠ					
			△アカデミックプレゼンテーションⅡ		△アカデミックライティングⅡ					
					△資格英語（TOEIC上級）					
		△オーラルコミュニケーションⅠ	△オーラルコミュニケーションⅡ							1, 5, 6, 8
	その他の外国語	△ドイツ語ⅠA（文法）	（△ドイツ語ⅠA（文法））							1, 5, 6
		（△ドイツ語ⅠB（文法））	△ドイツ語ⅠB（文法）							
		△ドイツ語ⅡA（読解）	（△ドイツ語ⅡA（読解））							
		（△ドイツ語ⅡB（読解））	△ドイツ語ⅡB（読解）	ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢB					
		△フランス語ⅠA	△フランス語ⅠB	△フランス語ⅡA	△フランス語ⅡB					
		△中国語ⅠA	（△中国語ⅠA）	△中国語ⅡA	（△中国語ⅡA）					
		（△中国語ⅠB）	△中国語ⅠB	（△中国語ⅡB）	△中国語ⅡB					
		△スペイン語ⅠA	△スペイン語ⅠB	△スペイン語ⅡA	△スペイン語ⅡB					
		△ロシア語ⅠA	△ロシア語ⅠB	△ロシア語ⅡA	△ロシア語ⅡB					
		日本語ⅠA	日本語ⅠB							
		日本語ⅡA	日本語ⅡB							
		海外語学演習（英語）								1, 5, 6, 9, 10
		海外語学演習（中国語）								
		海外語学演習（韓国語）								
		海外語学演習（フランス語）								
		海外語学演習（ドイツ語）								

※1：2024年度以降入学生のみ履修可能　　各科目の配当セメスターについては授業科目配当表を参照すること。

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	3．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	5．国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	6．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	7．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	8．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	１０．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	１１．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	１２．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 共通科目 カリキュラムマップ　２０１７～２０２２年度入学生用

○印: 必修　△印: 選択必修　※印: 登録必須　無印: 選択

分野		1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		DP対応番号
教養科目	人文	○キリスト教学 文学Ⅰ 哲学Ⅰ 歴史学Ⅰ 論理学Ⅰ 文化人類学Ⅰ [日本事情（人文）]	○キリスト教学（技術者としての倫理） 文学Ⅱ 哲学Ⅱ 歴史学Ⅱ 論理学Ⅱ 文化人類学Ⅱ 【廃】自校史							1, 6, 7, 12 1, (6), 7 1, 7 1, 6 1, 5, 6 1,3,6,7,9,10,12
	社会	経済学Ⅰ 社会学 法学 憲法 政治学Ⅰ 心理学Ⅰ [日本事情（社会）]	経済学Ⅱ 社会福祉論 （法学） （憲法） 政治学Ⅱ 心理学Ⅱ							1, 7 1, 5, 6
	複合	ソーシャルサービス ※KGUキャリアデザイン入門１ ※KGUキャリアデザイン入門２ 【廃】※KGUキャリアデザイン入門 [日本事情（自然）] ＫＧＵデータサイエンス概論	教養セミナ Japanese Culture and Society Ⅰ Japanese Culture and Society Ⅱ （ソーシャルサービス） KGUキャリアデザイン基礎 ＫＧＵデータサイエンス演習	【廃】KGUキャリアデザイン基礎２ 【廃】KGUキャリアデザイン応用						1, 6, 7, (12) 1, 5, 6 4, 6, 10, 12 1, 7, 10, 11, 12 1, 5, 6 1,4,7,8,12
	複合（地域）	△KGUかながわ学（行政） △KGUかながわ学（経済） △KGUかながわ学（スポーツ） △KGUかながわ学（歴史・文化） △KGUかながわ学（健康） △KGUかながわ学（地域安全） △KGUかながわ学（自然と災害） △KGUかながわ学（コミュニティ） △KGUかながわ学（地域づくり）	（△KGUかながわ学（行政）） （△KGUかながわ学（経済）） （△KGUかながわ学（スポーツ）） （△KGUかながわ学（歴史・文化）） （△KGUかながわ学（健康）） （△KGUかながわ学（地域安全）） △かながわ学（IT産業） （△KGUかながわ学（地域づくり）） △かながわ学（環境） △KGUかながわ学（政治）	地域創生特論（横浜） 地域創生特論（川崎） 地域創生特論（鎌倉） 地域創生特論（逗子） 地域創生特論（岩手） 地域創生特論（沖縄）	地域創生特論（神奈川） 地域創生特論（相模原） 地域創生特論（横須賀） 地域創生特論（三浦） 地域創生特論（葉山） 地域創生特論（茅ヶ崎） 地域創生特論（小田原） 地域創生特論（福島） 地域創生特論（関内）					1, 3, 7
保健体育科目		健康スポーツⅠ	健康スポーツⅡ	健康スポーツⅢ	健康スポーツⅣ	健康スポーツⅤ 【廃】武道指導論Ⅰ	健康スポーツⅥ 【廃】武道指導論Ⅱ			1, 9, 11
外国語科目	英語	○総合英語（リーディング） ○総合英語（オーラルコミュニケーション） （○総合英語（ライティング）） △英語講読（科学・基礎） △英語講読（科学） △資格英語（TOEIC基礎） △資格英語（TOEIC中級） △【廃】資格英語（技術英検） △留学英語 △オーラルコミュニケーションⅠ	○総合英語（リスニング） （○総合英語（オーラルコミュニケーション）） ○総合英語（ライティング） （△英語講読（科学）） △英語講読（文学） （△資格英語（TOEIC中級）） △英語講読（時事英語） △英語講読（論文） △アカデミックプレゼンテーションⅠ △アカデミックプレゼンテーションⅡ △オーラルコミュニケーションⅡ		△アカデミックライティングⅠ △アカデミックライティングⅡ △資格英語（TOEIC上級）					1, 5, 6 1, 5, 6, 8
	その他の外国語	△ドイツ語ⅠA（文法） （△ドイツ語ⅠB（文法）） △ドイツ語ⅡA（読解） （△ドイツ語ⅡB（読解）） △フランス語ⅠA △中国語ⅠA （△中国語ⅠB） △スペイン語ⅠA △ロシア語ⅠA △日本語ⅠA △日本語ⅡA 海外語学演習（英語） 海外語学演習（中国語） 海外語学演習（韓国語） 海外語学演習（フランス語） 海外語学演習（ドイツ語）	（△ドイツ語ⅠA（文法）） △ドイツ語ⅠB（文法） （△ドイツ語ⅡA（読解）） △ドイツ語ⅡB（読解） △フランス語ⅠB （△中国語ⅠA） △中国語ⅠB △スペイン語ⅠB △ロシア語ⅠB △日本語ⅠB △日本語ⅡB	ドイツ語ⅢA △フランス語ⅡA △中国語ⅡA （△中国語ⅡB） △スペイン語ⅡA △ロシア語ⅡA	ドイツ語ⅢB △フランス語ⅡB （△中国語ⅡA） △中国語ⅡB △スペイン語ⅡB △ロシア語ⅡB					1, 5, 6 1, 5, 6, 9, 10

各科目の配当セメスターについては授業科目配当表を参照すること。

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	3．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	5．国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	6．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	7．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	8．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	１０．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	１１．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	１２．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 建築・環境学科履修系統図　２０２２年度以降入学生用

				目的等
建築・環境学部専門科目	専門基幹科目			理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
	専門基礎科目	コモン	ワークショップ	ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。 また、仮設的な建築に関する 対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に 必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
			CAD	建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
			数学・法規・測量	(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。
				(法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
			建築設計製図	建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
	専門応用科目	コース・コア	建築 エンジニアリング コース	建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。
			建築デザイン コース	建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
			まちづくりデザイン コース	都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
			すまいデザイン コース	すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後の メンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
			環境共生デザイン コース	建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
		デザイン分野	建築計画・デザイン	建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通じて学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
			都市 ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
			都市 都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
			住宅	住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、 それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等	商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
			歴史	建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
		構造分野	構造力学	力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
			各種構造・計画	代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
			耐震・振動・応用	我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
			構造設計	鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
		材料・施工分野	材料	建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要あるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の３科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
			構法	建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。
			施工	設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
			維持管理	建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
		環境・設備分野	環境・設備要素	建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空気調和設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
			環境計画・デザイン	建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備（ZEB・ZEH）の設計・計画を 行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
			システム演習・実験・実習	建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通し、社会の動向や、キャリア意識を培う。
			省エネ・再エネ	建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築（カーボンニュートラル）のために必要な総合的な能力を養う。
	卒業研究			建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

学年別授業科目一覧

2025年度入学生用

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目	理工学概論	2														
ワークショップ	ドローイング ワークショップ	2,4,12	モデリング ワークショップ	jugyo	ビルディング ・ワークショップ	2,3,4 11,12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2,3,4 8,10								
コンピューテーショナル デザイン	コンピューテーショナルデザインⅠ	(2,4,12)	コンピューテーショナルデザインⅠ	(2,4,12)	コンピューテーショナルデザインⅡ	(2,4,12)	コンピューテーショナルデザインⅡ	(2,4,12)								
数学・法規・測量	基礎数学Ⅰ	2,12	基礎数学Ⅱ	2,12	基礎数学Ⅲ	2,12			建築法規A	2,3,7 12	建築法規B	2,3,7 12				
											測量学及び実習	2,11 12				
建築設計製図	建築設計製図Ⅰ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅱ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅲ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅳ	2,4,7 8,12								
建築 エンジニアリング コース									建築構法・構造デザインスタジオ	(2,4,7)	建築エンジニアリングスタジオA	(2,4,7)				
											建築エンジニアリングスタジオB	(2,4,7)				
建築デザイン コース									建築 デザインスタジオ１	1,2,3 4,6,7 8	建築 デザインスタジオ２	1,2,3 4,6,7 8				
まちづくりデザイン コース									まちづくり デザインスタジオ１	1,2,3 4,7,8	まちづくり デザインスタジオ２	2,3,4 7,8	総合 デザインスタジオ	1,2,3 4,7,8		
すまいデザイン コース									すまい デザインスタジオ１	1,2,4 6,7,8	すまい デザインスタジオ２	1,2,4 6,7,8				
環境共生デザイン コース					サステイナブル 建築・環境学実習	2,4, 10,11			パッシブ デザインスタジオ	2,4,7 8	建築環境 デザインスタジオ	2,4,7 8				
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1,2			建築計画Ⅰ	1,2,4 6,7	建築計画Ⅱ	1,2,7	建築再生計画論	1,2,4 7						
							建築デザイン論	2,7								
都市 ランドスケープ							ランドスケープ論	2								
都市 都市・地域							まちづくり論	6,9,11 12	不動産学基礎	2,7	アーバンデザイン	2,4,7 10				
									都市形成史	2,3,10						
住宅							家族論	1,2,6 9	すまいデザイン論	2,4,9	住居計画学	(1,2,4 6,9)				
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等									環境デザイン概論A	2,4,6 9	環境デザイン概論B	2,4,6 9				
歴史					日本・東洋建築史	(2,6)	西洋建築史	2,6	近代建築史	2,6						
構造力学			建築構造基礎	(2,7)	フレームの力学Ⅰ	2,7	フレームの力学Ⅱ	2,7	フレームの力学Ⅲ	2,7						
					静定フレーム演習	2,4,7										
各種構造・計画					建築構造計画	2,3,7	木質構造	2,4,7	鉄骨構造	2,4,7	建築構造実験	2,4,7 8,11				
									鉄筋コンクリート構造	2,4,7						
耐震・振動・応用							建築耐震工学概論	3,7	建築振動学	2,4,7	構造解析学	2,4,7				
構造設計																
材料			建築生産・構法基礎	(2,7)	建築材料学Ⅰ	2,7	建築材料学Ⅱ	2,4,7								
							建築材料実験	2,4,7 8,11								
構法					建築構法	(2,7)										
施工									建築生産	2,7	建築施工学	2,4,7				
維持管理									建築病理学	2,7	ファシリティ・ マネジメント	2,3,4 7,8,10 11,12				
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1,2,12	建築熱環境	2,12	建築水環境	2,12	建築電気設備論	2,12	建築・都市環境	2,12				
					建築光・音環境	2,12	建築空気環境	2,12								
環境計画・デザイン									建築設備計画	2,4,12	環境設備リニューアル	2,12				
									パッシブデザイン	2,12						
システム演習・実験									建築環境・設備実験	2,4,11 12	建築設備・設計演習	2,4,12				
									建築環境 シミュレーション	2,4,11 12						
省エネ・再エネ											建築環境エネルギー	2,12				
卒業研究													ゼミナール/ 卒業研究	1,2,4 7,8,10 11,12	卒業研究/ ゼミナール	1,2,4 7,8,10 11,12

必修科目　　コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	１．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	２．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	３．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	４．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	５．国際社会において協働できるコミュニケーションカを有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	６．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	７．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	８．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	９．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	１０．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	１１．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	１２．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

2022～2024年度入学生用

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目	理工学概論	2														
ワークショップ	ドローイング ワークショップ	2,4,12	モデリング ワークショップ	2,4,12	ビルディング ・ワークショップ	2,3,4 11,12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2,3,4 8,10								
CAD	コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12								
数学・法規・測量	基礎数学Ⅰ	2,12	基礎数学Ⅱ	2,12	基礎数学Ⅲ	2,12			建築法規A	2,3,7 12	建築法規B	2,3,7 12				
											測量学及び実習	2,11 12				
建築設計製図	建築設計製図Ⅰ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅱ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅲ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅳ	2,4,7 8,12								
建築 エンジニアリング コース									建築構法設計製図	2,4,7	建築構造設計製図	2,4,7				
建築デザイン コース									建築 デザインスタジオ 1	1,2,3 4,6,7 8	建築 デザインスタジオ 2	1,2,3 4,6,7 8				
まちづくりデザイン コース									まちづくり デザインスタジオ１	1,2,3 4,7,8	まちづくり デザインスタジオ２	2,3,4 7,8	総合 デザインスタジオ	1,2,3 4,7,8		
すまいデザイン コース									すまい デザインスタジオ 1	1,2,4 6,7,8	すまい デザインスタジオ 2	1,2,4 6,7,8				
環境共生デザイン コース					サステイナブル 建築・環境学実習	2,4, 10,11			パッシブ デザインスタジオ	2,4,7 8	建築環境 デザインスタジオ	2,4,7 8				
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1,2			建築計画Ⅰ	1,2,4 6,7	建築計画Ⅱ	1,2,7	建築再生計画論	1,2,4 7						
							建築デザイン論	2,7								
都市 ランドスケープ							ランドスケープ論	2								
都市 都市・地域							まちづくり論	6,9,11 12	不動産学基礎	2,7						
									都市形成史	2,3,10	アーバンデザイン	2,4,7 10				
住宅							家族論	1,2,6 9	すまいデザイン論	2,4,9	住居計画学	1,2,4 6,9				
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等									環境デザイン概論 A	2,4,6 9	環境デザイン概論 B	2,4,6 9				
歴史					日本・東洋建築史	2,6	西洋建築史	2,6	近代建築史	2,6						
構造力学			建築構造基礎	2,7	フレームの力学Ⅰ	2,7	フレームの力学Ⅱ	2,7	フレームの力学Ⅲ	2,7						
					静定フレーム演習	2,4,7	不静定フレーム演習	2,4,7								
各種構造・計画					建築構造計画	2,3,7	木質構造	2,4,7	鉄骨構造	2,4,7	建築構造実験	2,4,7 8,11				
									鉄筋コンクリート構造	2,4,7						
耐震・振動・応用							建築耐震工学概論	3,7	建築振動学	2,4,7	構造解析学	2,4,7	基礎・地盤力学	2,7		
													地震工学概論	3,7		
構造設計											構造設計Ⅰ	2,4,7	構造設計Ⅱ	2,4,7		
材料			建築生産・構法基礎	2,7	建築材料学Ⅰ	2,7	建築材料学Ⅱ	2,4,7								
							建築材料実験	2,4,7 8,11								
構法					建築構法	2,7	建築構法Ⅱ	2,4,7								
施工									建築生産	2,7	建築施工学	2,4,7	施工演習	2,4,7		
維持管理									建築病理学	2,7	ファシリティ・ マネジメント	2,3,4 7,8,10 11,12				
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1,2,12	建築熱環境	2,12	建築水環境	2,12	建築電気設備論	2,12	建築・都市環境	2,12				
					建築光・音環境	2,12	建築空気環境	2,12								
環境計画・デザイン									建築設備計画	2,4,12	環境設備リニューアル	2,12				
									パッシブデザイン	2,12						
システム演習・実験									建築環境・設備実験	2,4,11 12	建築設備・設計演習	2,4,12				
									建築環境 シミュレーション	2,4,11 12						
省エネ・再エネ											建築環境エネルギー	2,12				
卒業研究													ゼミナール/ 卒業研究	1,2,4 7,8,10 11,12	卒業研究/ ゼミナール	1,2,4 7,8,10 11,12

必修科目　　コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	3．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	5．国際社会において協働できるコミュニケーションカを有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	6．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	7．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	8．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	１０．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	１１．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	１２．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 建築・環境学科履修系統図　２０２１年度入学生用

					目的等
建築・環境学部専門科目	専門基幹科目				理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
	専門基礎科目	コモン	ワークショップ		ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。 また、仮設的な建築に関する 対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に 必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
			CAD		建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
			数学・法規・測量		(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。
					(法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
			建築設計製図		建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
	専門応用科目	コース・コア	建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース	建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。
				建築 材料・施工 サブコース	
			建築デザイン コース		建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
			まちづくりデザイン コース		都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
			すまいデザイン コース		すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後の メンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
			環境共生デザイン コース		建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
		デザイン分野	建築計画・デザイン		建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通じて学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
			都市	ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
				都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
			住宅		住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、 それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等		商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
			歴史		建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
		構造分野	構造力学		力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
			各種構造・計画		代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
			耐震・振動・応用		我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
			構造設計		鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
		材料・施工分野	材料		建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要あるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の３科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
			構法		建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。
			施工		設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
			維持管理		建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
		環境・設備分野	環境・設備要素		建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空気調和設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
			環境計画・デザイン		建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備（ZEB・ZEH）の設計・計画を 行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
			システム演習・実験・実習		建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通し、社会の動向や、キャリア意識を培う。
			省エネ・再エネ		建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築（カーボンニュートラル）のために必要な総合的な能力を養う。
			卒業研究		建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

2021年度入学生用

		1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
		科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目		理工学概論	2														
ワークショップ		ドローイング ワークショップ	2,4,12	モデリング ワークショップ	2,4,12	ビルディング ・ワークショップ	2,3,4 11,12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2,3,4 8,10								
CAD		コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12								
数学・法規・測量		基礎数学Ⅰ	2,12	基礎数学Ⅱ	2,12	基礎数学Ⅲ	2,12			建築法規A	2,3,7 12	建築法規B	2,3,7 12				
												測量学及び実習	2,11 12				
建築設計製図		建築設計製図Ⅰ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅱ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅲ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅳ	2,4,7 8,12								
建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース									建築構法設計製図	2,4,7	建築構造設計製図	2,4,7				
	建築 材料・施工 サブコース																
建築デザイン コース										建築 デザインスタジオ 1	1,2,3 4,6,7 8	建築 デザインスタジオ 2	1,2,3 4,6,7 8	総合 デザインスタジオ	1,2,3 4,7,8		
まちづくりデザイン コース										まちづくり デザインスタジオ1	1,2,3 4,7,8	まちづくり デザインスタジオ2	2,3,4 7,8				
すまいデザイン コース										すまい デザインスタジオ 1	1,2,4 6,7,8	すまい デザインスタジオ 2	1,2,4 6,7,8				
環境共生デザイン コース						サステイナブル 建築・環境学実習	2,4, 10,11			パッシブ デザインスタジオ	2,4,7 8	建築環境 デザインスタジオ	2,4,7 8				
建築計画・デザイン		建築計画・ デザイン基礎	1,2			建築計画Ⅰ	1,2,4 6,7	建築計画Ⅱ	1,2,7	建築再生計画論	1,2,4 7						
								建築デザイン論	2,7								
都市	ランドスケープ							ランドスケープ論	2								
	都市・地域							まちづくり論	6,9,11 12	不動産学基礎	2,7	アーバンデザイン	2,4,7 10				
										都市形成史	2,3,10						
住宅								家族論	1,2,6 9	すまいデザイン論	2,4,9	住居計画学	1,2,4 6,9				
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等										環境デザイン概論A	2,4,6 9	環境デザイン概論B	2,4,6 9				
歴史						日本・東洋建築史	2,6	西洋建築史	2,6	近代建築史	2,6						
構造力学				建築構造基礎	2,7	フレームの力学Ⅰ	2,7	フレームの力学Ⅱ	2,7	フレームの力学Ⅲ	2,7						
						静定フレーム演習	2,4,7	不静定フレーム演習	2,4,7								
各種構造・計画						建築構造計画	2,3,7	木質構造	2,4,7	鉄骨構造	2,4,7	建築構造実験	2,4,7 8,11				
										鉄筋コンクリート構造	2,4,7						
耐震・振動・応用								建築耐震工学概論	3,7	建築振動学	2,4,7	構造解析学	2,4,7	基礎・地盤力学	2,7		
														地震工学概論	3,7		
構造設計												構造設計Ⅰ	2,4,7	構造設計Ⅱ	2,4,7		
材料				建築生産・構法基礎	2,7	建築材料学Ⅰ	2,7	建築材料学Ⅱ	2,4,7								
								建築材料実験	2,4,7 8,11								
構法						建築構法	2,7	建築構法Ⅱ	2,4,7								
施工										建築生産	2,7	建築施工学	2,4,7	施工演習	2,4,7		
維持管理										建築病理学	2,7	ファシリティ・ マネジメント	2,3,4 7,8,10 11,12				
環境・設備要素				建築環境・設備基礎	1,2,12	建築熱環境	2,12	建築水環境	2,12	建築電気設備論	2,12	建築・都市環境	2,12				
						建築光・音環境	2,12	建築空気環境	2,12								
環境計画・デザイン										建築設備計画	2,4,12	環境設備リニューアル	2,12				
										パッシブデザイン	2,12						
システム演習・実験										建築環境・設備実験	2,4,11 12	建築設備・設計演習	2,4,12				
										建築環境 シミュレーション	2,4,11 12						
省エネ・再エネ												建築環境エネルギー	2,12				
卒業研究														ゼミナール/ 卒業研究	1,2,4 7,8,10 11,12	卒業研究/ ゼミナール	1,2,4 7,8,10 11,12

必修科目　　コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	3．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	5．国際社会において協働できるコミュニケーションカを有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	6．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	7．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	8．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	10．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	11．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	12．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 建築・環境学科履修系統図　２０１３～２０２０年度入学生用

					目的等
建築・環境学部専門科目	専門基幹科目				理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
	専門基礎科目	コモン	ワークショップ		ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。 また、仮設的な建築に関する 対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に 必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
			CAD		建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
			数学・法規・測量		(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。
					(法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
			建築設計製図		建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
	専門応用科目	コース・コア	建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース 建築 材料・施工 サブコース	建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。
			建築デザイン コース		建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
			建築・都市再生デザイン コース		都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
			すまいデザイン コース		すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後の メンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
			環境共生デザイン コース		建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
		デザイン分野	建築計画・デザイン		建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通じて学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
			都市	ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
				都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
			住宅		住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、 それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等		商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
			歴史		建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
		構造分野	構造力学		力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
			各種構造・計画		代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
			耐震・振動・応用		我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
			構造設計		鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
		材料・施工分野	材料		建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要あるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の３科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
			構法		建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。
			施工		設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
			維持管理		建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
		環境・設備分野	環境・設備要素		建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空気調和設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
			環境計画・デザイン		建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備（ZEB・ZEH）の設計・計画を 行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
			システム演習・実験・実習		建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通し、社会の動向や、キャリア意識を培う。
			省エネ・再エネ		建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築（カーボンニュートラル）のために必要な総合的な能力を養う。
			卒業研究		建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

2013～2020年度入学生用

		１・２セメスター				３・４セメスター				５・６セメスター				７・８セメスター			
		科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目		理工学概論	2														
ワークショップ		ドローイング ワークショップ	2,4,12	モデリング ワークショップ	2,4,12	ビルディング ・ワークショップ	2,3,4 11,12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2,3,4 8,10								
CAD		コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	コンピュテーショナルデザインⅠ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12	CAD演習Ⅱ	2,4,12								
								CAD演習Ⅲ	2,4,12								
数学・法規・測量		基礎数学Ⅰ	2,12	基礎数学Ⅱ	2,12	基礎数学Ⅲ	2,12			建築法規A	2,3,7 12	建築法規B	2,3,7 12				
		文系のための 建築数学・物理	2,12									測量学及び実習	2,11 12				
建築設計製図		建築設計製図Ⅰ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅱ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅲ	2,4,7 8,12	建築設計製図Ⅳ	2,4,7 8,12								
建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース									建築構法設計製図	2,4,7	建築構造設計製図	2,4,7				
	建築 材料・施工 サブコース																
建築デザイン コース										ハウジング デザインスタジオ	1,2,3 4,6,7 8	地域施設 デザインスタジオ	1,2,3 4,6,7 8	建築・都市 デザインスタジオ	2,3,4 7,8		
建築・都市再生デザイン コース										建築再生 デザインスタジオ	1,2,3 4,7,8	都市再生 デザインスタジオ	2,3,4 7,8				
すまいデザイン コース								住宅ケース スタディ演習	1,2,4 6,7,8 10	住宅インテリア デザインスタジオ	1,2,4 6,7,8	住宅設計スタジオ	1,2,4 6,7,8	すまい デザインスタジオ	1,2,4 7,8		
環境共生デザイン コース										パッシブ デザインスタジオ	2,4,7 8	建築環境 デザインスタジオ	2,4,7 8				
建築計画・デザイン		建築計画・ デザイン基礎	1,2			建築計画Ⅰ	1,2,4 6,7	建築計画Ⅱ	1,2,7	建築再生計画論	1,2,4 7						
								建築デザイン論	2,7								
都市	ランドスケープ					サウンドスケープデザイン	1	ランドスケープ論	2								
	都市・地域							まちづくり論	6,9,11 12	不動産学基礎	2,7	アーバンデザイン	2,4,7 10	都市・地域計画論	2,3,7 9,10		
										都市形成史	2,3,10						
住宅								家族論	1,2,6 9	すまいデザイン論	2,4,9	住居計画学	1,2,4 6,9				
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等										インテリアデザイン	2,4,6 9	ファーニチャーデザイン	2,4,6 9				
										環境デザイン概論A		環境デザイン概論B					
歴史						日本・東洋建築史	2,6	西洋建築史	2,6	近代建築史	2,6	建築理論史	2,6				
構造力学				建築構造基礎	2,7	フレームの力学Ⅰ	2,7	フレームの力学Ⅱ	2,7	フレームの力学Ⅲ	2,7						
						静定フレーム演習	2,4,7	不静定フレーム演習	2,4,7								
各種構造・計画						建築構造計画	2,3,7			鉄骨構造	2,4,7	建築構造実験	2,4,7 8,11				
										鉄筋コンクリート構造	2,4,7						
										木質構造	2,4,7						
耐震・振動・応用								建築耐震工学概論	3,7	建築振動学	2,4,7	構造解析学	2,4,7	基礎・地盤力学	2,7		
														地震工学概論	3,7		
構造設計												構造設計Ⅰ	2,4,7	構造設計Ⅱ	2,4,7		
材料				建築生産・構法基礎	2,7	建築材料学Ⅰ	2,7	建築材料学Ⅱ	2,4,7			インテリア材料・施工	2,7				
								建築材料実験	2,4,7 8,11								
構法						建築構法	2,7	建築構法Ⅱ	2,4,7								
施工										建築施工学Ⅰ	2,7	建築施工学Ⅱ	2,4,7	施工演習	2,4,7		
										建築生産	2,7						
維持管理										建築病理学	2,7	ファシリティ・ マネジメント	2,3,4 7,8,10 11,12				
環境・設備要素				建築環境・設備基礎	1,2,12	建築熱環境	2,12	建築水環境	2,12	建築電気設備論	2,12	建築・都市環境	2,12	建築環境・設備応用	2,4,12		
						建築光・音環境	2,12	建築空気環境	2,12	都市環境	2,12						
環境計画・デザイン										建築設備計画	2,4,12	環境設備 リニューアル	2,12	環境設備維持保全	2,12		
										パッシブデザイン	2,12						
システム演習・実験										建築環境・設備実験	2,4,11 12	建築設備・設計演習	2,4,12				
										建築環境シミュレーション	2,4,12						
省エネ・再エネ												建築環境エネルギー	2,12				
												資源リサイクル	2,12				
卒業研究														ゼミナール/ 卒業研究	1,2,4 7,8,10 11,12	卒業研究/ ゼミナール	1,2,4 7,8,10 11,12

必修科目　　コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー（DP）については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	１．自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	２．建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	３．建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	４．建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	５．国際社会において協働できるコミュニケーションカを有している。（国際協動力）
思考・判断・表現	６．他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	７．倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断）
	８．他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	９．生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	１０．社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	１１．建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	１２．問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ（2025年度入学生用）

2025年02月07日作成

共通科目／専門基幹科目

- 総合英語
- キリスト教学

（必修）

- ドイツ語　フランス語　中国語　ロシア語　スペイン語　日本語　など
- KGUかながわ学（選択必修）　文学　経済学　哲学　歴史学　社会学　法学　心理学　など
- 微分・積分　線形数学　代数幾何　統計学　物理　化学　生物　情報　など

専門科目（必修）

1年次	2年次
建築設計製図Ⅰ	建築設計製図Ⅱ / 建築設計製図Ⅲ / 建築設計製図Ⅳ
理工学概論	
建築計画・デザイン基礎	建築構造基礎
	建築生産・構法基礎
	建築環境・設備基礎

専門科目（選択）

1年次	2年次
ドローイングWS	モデリングWS / ビルディング・WS / ランドスケープデザイン・WS
基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ / 基礎数学Ⅲ
コンピュテーショナルデザインⅠ	コンピュテーショナルデザインⅡ
	建築計画Ⅰ / 建築計画Ⅱ
	日本・東洋建築史 / 西洋建築史
	建築デザイン論
	まちづくり論
	ランドスケープ論
	家族論
	フレームの力学Ⅰ / フレームの力学Ⅱ
	静定フレーム演習 / 木質構造
	建築構造計画 / 建築耐震工学概論
	建築材料学Ⅰ / 建築材料学Ⅱ
	建築構法 / 建築材料実験
	建築熱環境 / 建築水環境
	建築光・音環境 / 建築空気環境
	サステイナブル建築・環境学実習

コース配属

3年次		4年次	
建築デザインコース 必修科目			
建築デザインスタジオ１	建築デザインスタジオ２	ゼミナール / 総合デザインスタジオ（推奨）	卒業研究
まちづくりデザインコース 必修科目			
まちづくりデザインスタジオ１	まちづくりデザインスタジオ２	合同で実施：ゼミナール / 総合デザインスタジオ（推奨）	卒業研究
すまいデザインコース 必修科目			
すまいデザインスタジオ１	すまいデザインスタジオ２	ゼミナール / 総合デザインスタジオ（推奨）	卒業研究
建築エンジニアリングコース 必修科目			
建築構法・構造デザインスタジオ	建築エンジニアリングスタジオ	ゼミナール	卒業研究
環境共生デザインコース 必修科目			
パッシブデザインスタジオ	建築環境デザインスタジオ	ゼミナール	卒業研究
建築環境・設備実験（推奨）			
建築法規A	建築法規B / 測量学及び実習		コモン
環境デザイン概論A	環境デザイン概論B		
近代建築史	住居計画学		
建築再生計画論	アーバンデザイン		デザイン分野
都市形成史			
不動産学基礎			
すまいデザイン論			
フレームの力学Ⅲ	建築構造実験 / 構造解析学		構造分野
鉄骨構造			
鉄筋コンクリート構造			
建築振動学			
建築生産	建築施工学		材料・施工分野
建築病理学	ファシリティ・マネジメント		
建築電気設備論	建築・都市環境		環境・設備分野
パッシブデザイン	環境設備リニューアル		
建築設備計画	建築設備・設計演習		
建築環境シミュレーション	建築環境エネルギー		

研究室配属

（推奨）：必修ではありませんが、所属コースの科目の履修を強く推奨します。

CP：カリキュラム・ポリシー（概要）

建築･環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく､ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり､その多面性から本学部･学科は５つのコースを設けていますが､教育課程として１つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは１･２年次の建築設計製図、３･４年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され､学部共通に１年次より用意された共通科目及び専門科目の個別的科目群を総合化する場として位置付けられています｡ここでは学生第一と考え､学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により､設計を中心とした実践的な学修を行います。

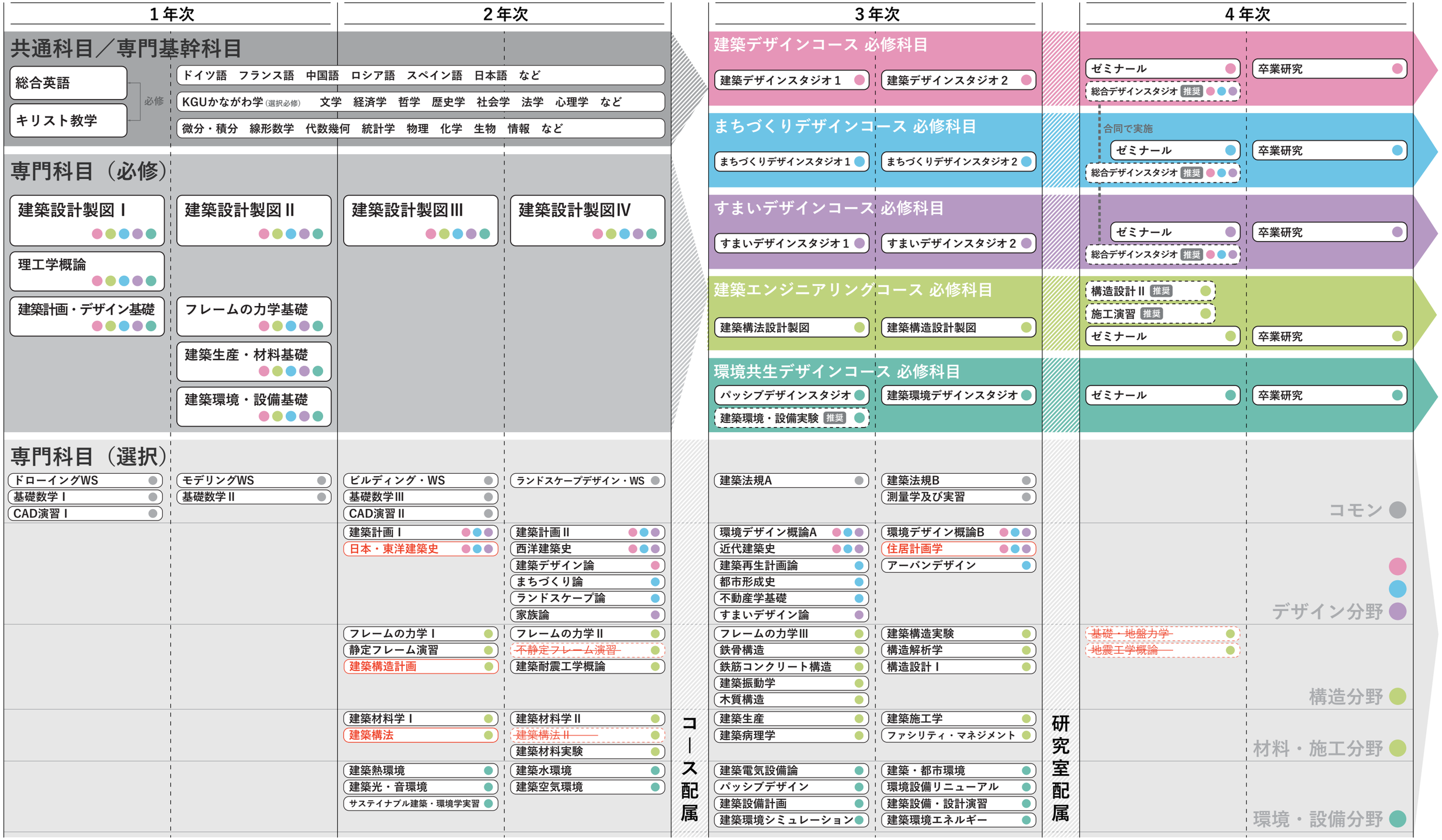
DP：ディプロマ・ポリシー（概要）

建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

具体的には、
- 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
- 建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
- 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
- 上記コース毎に設定されたDP(diploma policy)を修得している

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ（2024年度以前入学生用）

2025年02月07日作成



推奨：必修ではありませんが、所属コースの科目の履修を強く推奨します。

CP：カリキュラム・ポリシー（概要）

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は５つのコースを設けていますが、教育課程として１つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは１・２年次の建築設計製図、３・４年次から分かれるコース毎のスタジオ（卒業研究を含む）により構成され、学部共通に１年次より用意された共通科目及び専門科目の個別的科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

DP：ディプロマ・ポリシー（概要）

建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

具体的には、
- 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
- 建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
- 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
- 上記コース毎に設定されたDP(diploma policy)を修得している